

○ 「放射線科には、どんな機器があるのでしょうか？」

当院では、患者様の診察を的確に行う為に、各種検査を行っております。特に画像検査の分野では最新鋭のCT、MRIを導入しており、当院の患者様の検査を行っております。当院放射線科には、その他どんな機器があるのか放射線科公文弘技師長、に紹介していただきます。

放射線科の機器紹介

病院のなかで放射線科（レントゲン室）は、機械だらけで怖い（機械も人も）、放射線（エックス線）は恐ろしい、等々思われている方も多いと思われます。患者様に安心して検査していただくために、今月号より数回にわたり放射線科の機器紹介を行っていきたくと思います。当院に設置されている機器の価格は、数千万円から数億円までと大変高価なものですが、今回は値段の高い機器から順番に説明していきたくと思います。

MRI装置

強力な磁場の中に入り撮影します。撮影と言っても検診で胸の写真を撮るような撮影ではありません。強力な磁場の中で整列させられた体内の水素原子のエネルギーを捉えて画像化するものです。中に入られた方は嫌でも聞かされる高い音はその時のエネルギーを捉える為の電波による空間の歪みの音です。撮影する時間は、MRI装置の磁場強度によります。当院のMRI装置は1.5T（テスラー）で、通常の撮影に関する時間は20分前後です。現在は3.0T（テスラー）の装置も発売されています。又小さいテスラーによる、形が筒状ではなくオープン型の装置もあります。これは閉所が苦手な方でも撮影可能です。



MRIを撮られる方は必ず問診を行ないます。これまで説明してきた通り、撮影に磁力を使用するため、磁力に反応する物があると撮影できないのです。体内に金属があると撮影に支障をきたすだけでなく人体に重篤な影響を及ぼす場合も生じてきます。埋め込み型心臓ペースメーカー装着者の方は検査できません。

MRI検査は撮影時、音がうるさいことを除けば比較的安全に検査でき、大きな情報を得ることが出来る装置として有用な機器です。

補足

○ MRIの磁場強度

ボールペンが吸い寄せられるとその先端が前方のボードに突き刺さります。

○ MRIの保守

強力な磁場を保つ為に、常時コイルを冷却する必要があります。冷却のためには液体ヘリウムを使用します。（冷却を必要としない永久磁石による装置もあります。）

○ イベントのお知らせ

平成21年度第3回ふれあい医療教室

日時 平成22年2月27日（土） 13時開場 13時30分開演

場所 安芸市民会館 大ホール

テーマ 1. 南海地震に備えて

[安芸病院 整形外科医長 今里 滋宏 先生]

2. 体をひきしめる『スロー筋トレ』

[高知大学医学部医療学講座（公衆衛生学）准教授 都竹 茂樹 先生]

当日参加費は、無料です。皆様お誘いあわせのうえ、ご参加ください。

○ 第8回「リハビリ教室」開催しました！



リハビリの技術を地域の方々にも還元して行く目的で平成18年度より始めたリハビリ教室は、今回で第8回目を迎え1月21日（木）、「姿勢と痛み・正しい姿勢について」のテーマでお話をさせていただきました。

地域の方々、約30名にご参加いただき、貴重なご意見とアンケートにご協力をいただきました。これからのリハビリ教室開催に生かして行きたいと思っております。ありがとうございました。

リハビリテーション科
技師長 元吉 明

○ お知らせ

平成22年4月から肝臓機能障害による身体障害者手帳が交付されます。

対象者 ○認定基準に該当する肝臓機能障害のある方
○肝臓移植を受け、抗免疫療法を実施している方

手続き 申請書、診断書、写真（たて4cm×横3cm）をお住まいの市町村障害福祉担当窓口へ提出してください。

※ 診断書は、身体障害者手帳指定医が作成したものに限りです。

※ 申請書、診断書は市町村障害福祉担当窓口にあります。

【認定基準】

主として肝臓機能障害の重症度分類であるChild-Pugh分類によって判定します。3ヶ月以上グレードCに該当する方が、概ね身体障害者手帳の交付対象となります。ただし、診断前の6ヶ月間にアルコールを摂取している方等は対象とはなりません。

※Child-Pugh分類

肝性脳症、腹水、血清アルゴミン値、プロトロンビン時間、血清総ビリルビン値によって肝臓機能障害の重症度を評価します。

詳しい手続き方法や認定基準の内容、指定医のいる医療機関などについては、お住まいの市町村の障害福祉担当窓口までお問い合わせください。